

琉球大学卒業生調査（2018年実施）結果の報告

平成 15, 20, 25 年の各 3 月に本学を卒業された方を対象にして、本学での学習経験等に関する質問紙（Web）調査を実施した結果の一部を以下の通り公表します。学部別集計結果等の詳細な情報は教育改善に向けた学内検討資料として活用する所存です。ご協力賜りました卒業生の皆様に感謝申し上げます。なお、回答は 554 名、調査対象者の約 1 割の方から寄せられました。また、本調査は大学 IR コンソーシアムの企画によるものです。

1. 身についた能力

在学中に身についた能力を尋ねた結果を図 1 に示した。全般的に「身についた」「やや身についた」とする肯定的な回答が多数派を占めたが、「リーダーシップの能力」と「外国語の運用能力」については否定的な回答が過半数を占めた。また、図 2 には社会で求められる能力との比較を示した。具体的には、在学中に「身についた」あるいは「やや身についた」と回答した割合と、社会で「強く求められている」あるいは「求められている」と回答した割合を能力ごとに並べたものである。最も隔たりが大きいものが「リーダーシップの能力」であった。

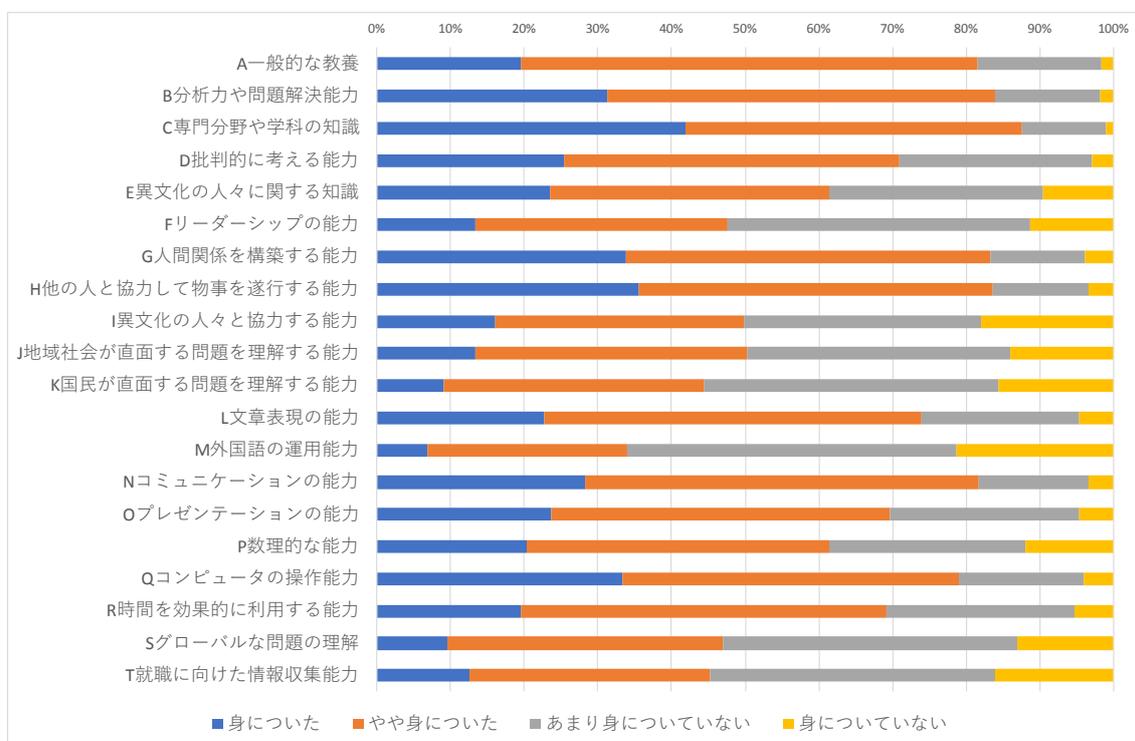


図 1 在学中に身についた能力

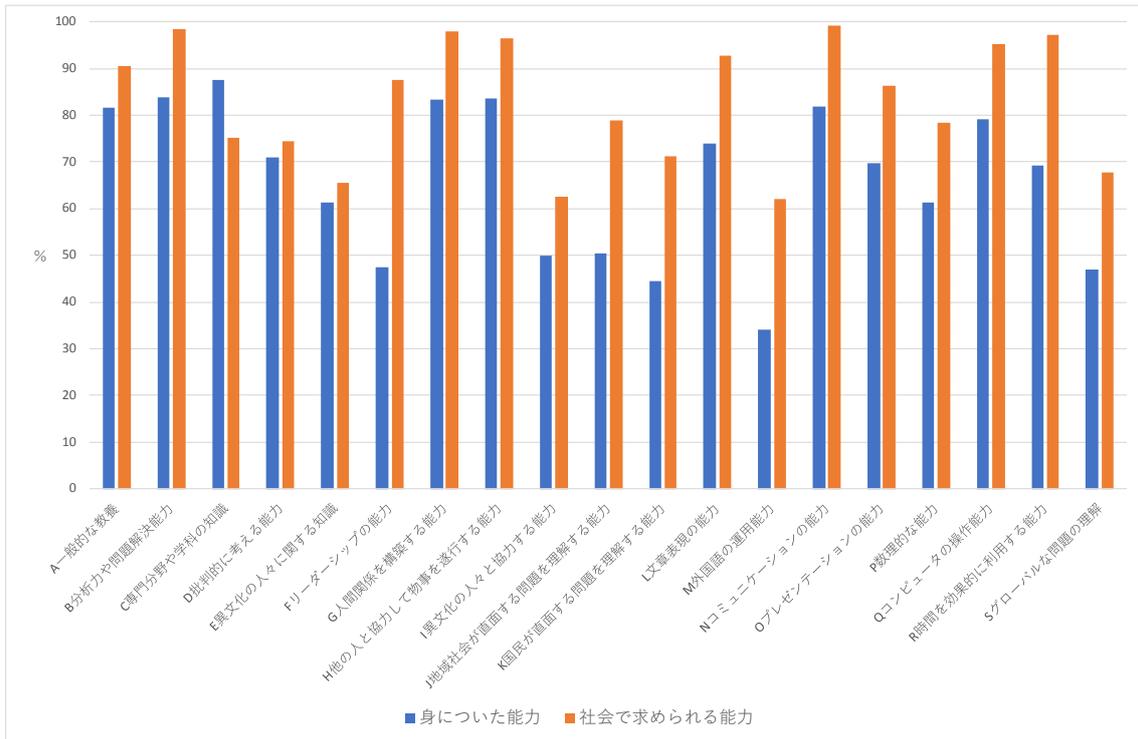


図 2 在学中に身についた能力と社会で求められる能力

2. 大学は満足いくものだったか

本学の教育・研究と学生生活のそれぞれを振り返って満足の程度を尋ねた回答結果を図3に示した。教育・研究については「とても満足」あるいは「満足」とした回答が合わせて65%と多数派を占め、「どちらとも言えない」が3割であった。次に、学生生活への満足感はさらに高く、「とても満足」「満足」で85%であった。

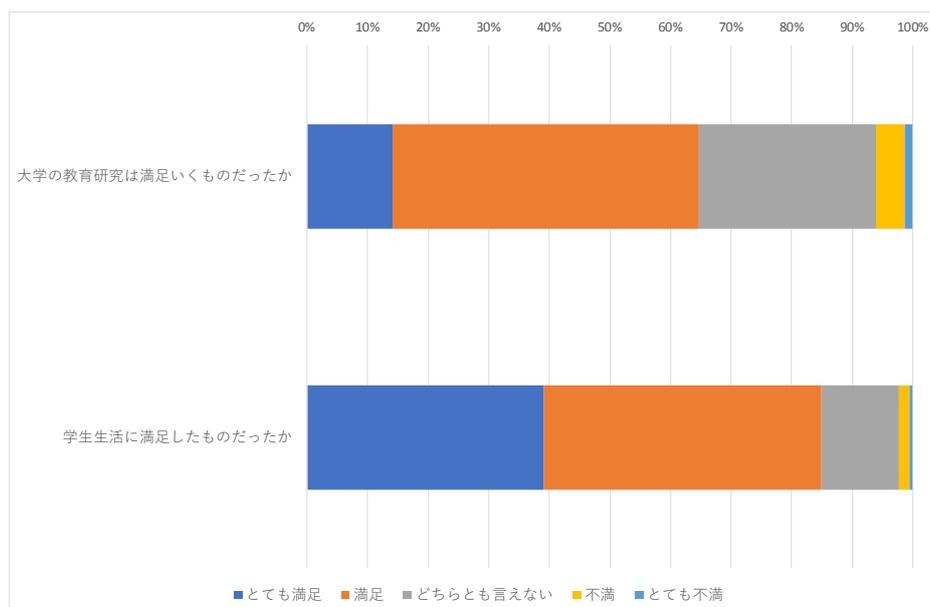


図3 大学への満足感

3. キャリアについて

初職が志望にかなうものだったか、また、これまでのキャリアパスに満足しているかどうかを尋ねた結果を図4に示した。初職については回答者の7割強が志望にかなうものであったとした。また、これまでのキャリアパスについては、回答者の65%が肯定的であった。

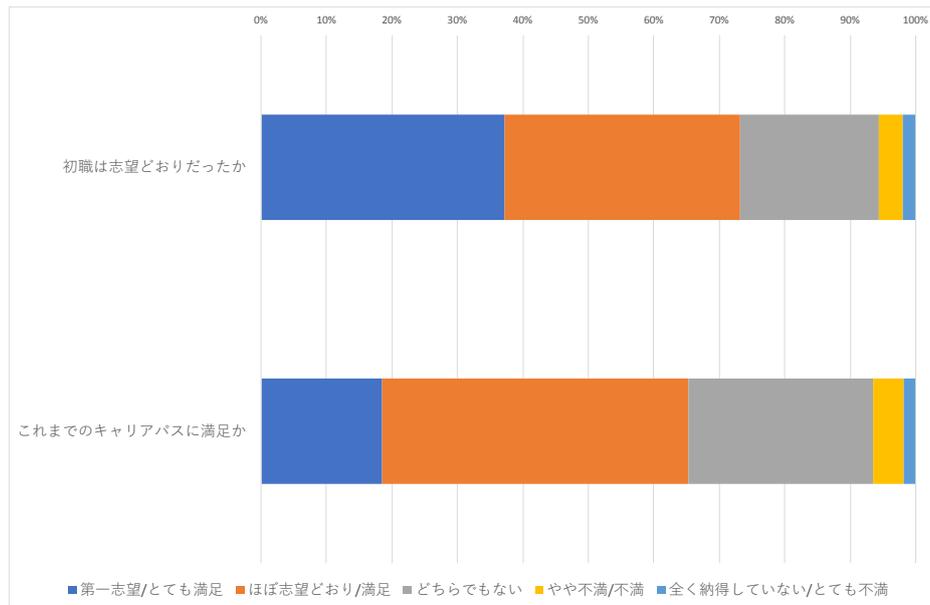


図4 キャリアへの満足感